

指織りで毛糸の
ブレスレットをつくろう

 北海道博物館
森のチャレンジ HOKKAIDO MUSEUM





Fingerweaving 製作のようす 写真：www.spranglady.com



Fingerweaving で製作されたベルト

写真：Gerald L Findley 「Fingerweaving Basics」(2005)

Finger weaving（指織り）とは、機械的な装置や道具を使わずに、人の指で布を織っていく方法です。世界中のさまざまな所で行われてきたようですが、今回はカナダの先住民族などに伝わる **finger weaving** に注目してみましょう。

カナダに住む **Métis**（メイティ、メティス）などの先住民族には **finger weaving** の美しい織物が伝わっています。この織物の製作がいつ始まったのか明らかではありませんが、19世紀の初頭 **finger weaving** で織りあげた **sash**（帯）が毛皮交易の商品となり、これをきっかけとして各地に **finger weaving** の品物や技法が広まっていったと言われています。

交易品としての需要の高まりから機械織りによる量産も行われ、時間や手間が短縮されるようになりましたが、**Finger weaving** は時代とともに人の手から手へと伝えられ、現在は文化施設や博物館で開かれる教室などで、そうした技術の習得と伝承に取り組む人々の姿も見られます。

今回はそうした **Finger weaving** の基本的な織り方を学びながら、毛糸のブレスレットを作ってみましょう！

出典：木村和男「<カナダ>20 メイティ カナダの混血先住民」綾部恒雄監修/富田虎男・スチュアートヘンリ編『講座 世界の先住民族—ファースト・ピープルの現在—』明石書店 2005

Darren R, Prefontaine, Karon L. Shmon. The Sash. Canada: Gabriel Dumont Institute, 1880s. ほか

40cm ほどの糸を
8 本写真のように
並べ、上から 3~4
cm のところを細糸で
しっかりとしばる。

1

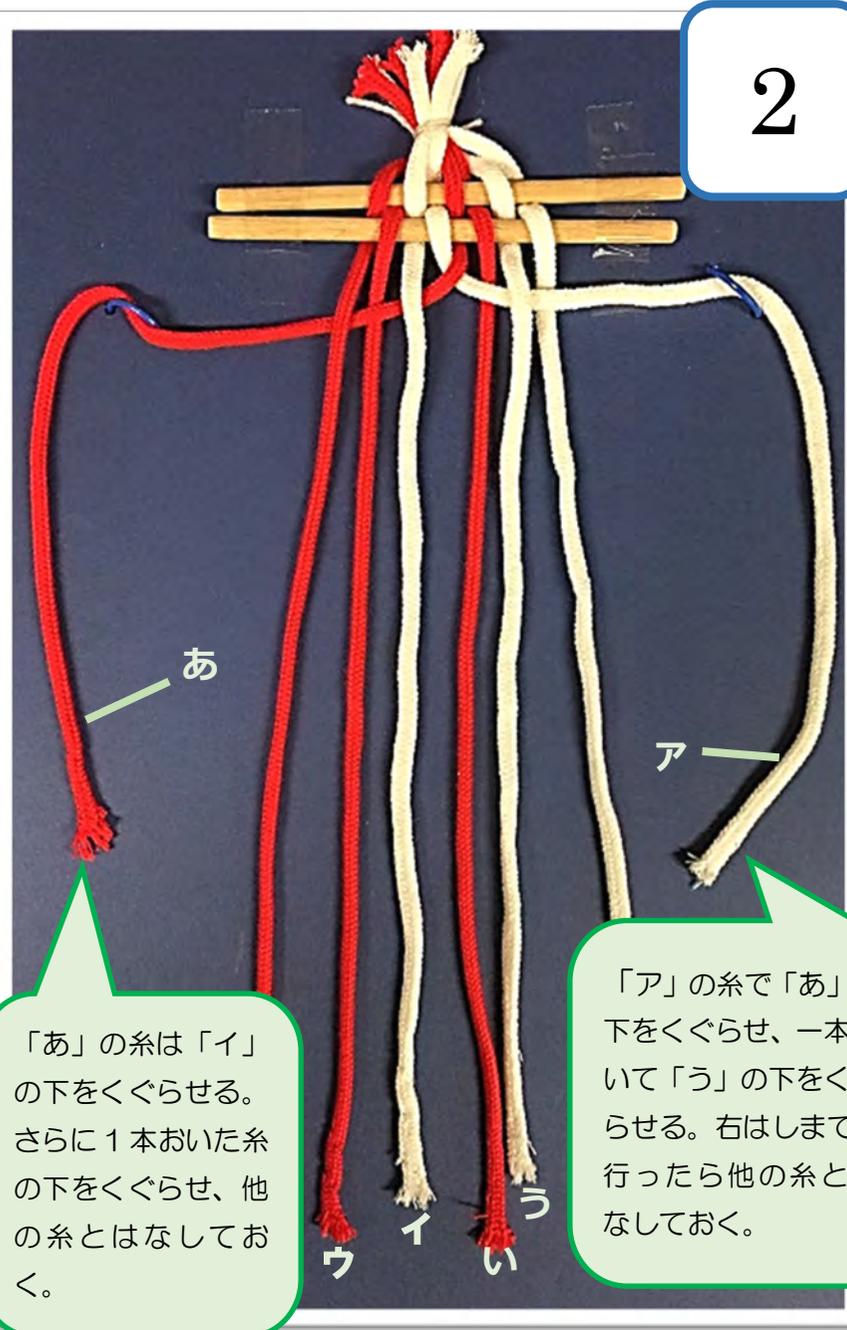
もう一本の丸棒は
右はしの糸の下を
くぐらせ、さらに
1 本おきにくぐら
せて、セロテープ
で固定する。

丸棒を「う」の糸の下
をくぐらせ、さらに 1
本おきにくぐらせてい
き、両はしをセロテー
プで固定する。

☆◎までは織り方がわかりや
すいように、アクリルひもを
使って説明しています。



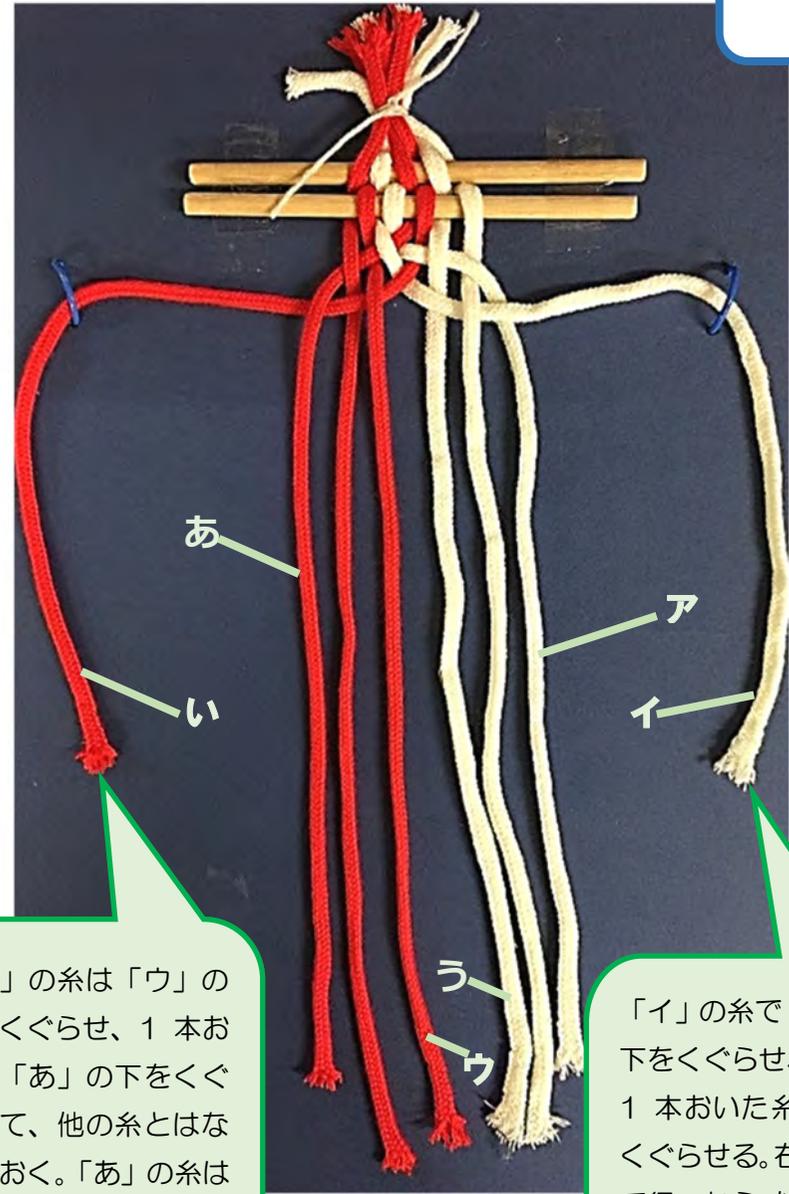
2



「あ」の糸は「イ」
の下をくぐらせる。
さらに 1 本おいた糸
の下をくぐらせ、他
の糸とはなしてお
く。

「ア」の糸で「あ」の
下をくぐらせ、一本お
いて「う」の下をくぐ
らせる。右はしまで
行ったら他の糸とは
なしておく。

3

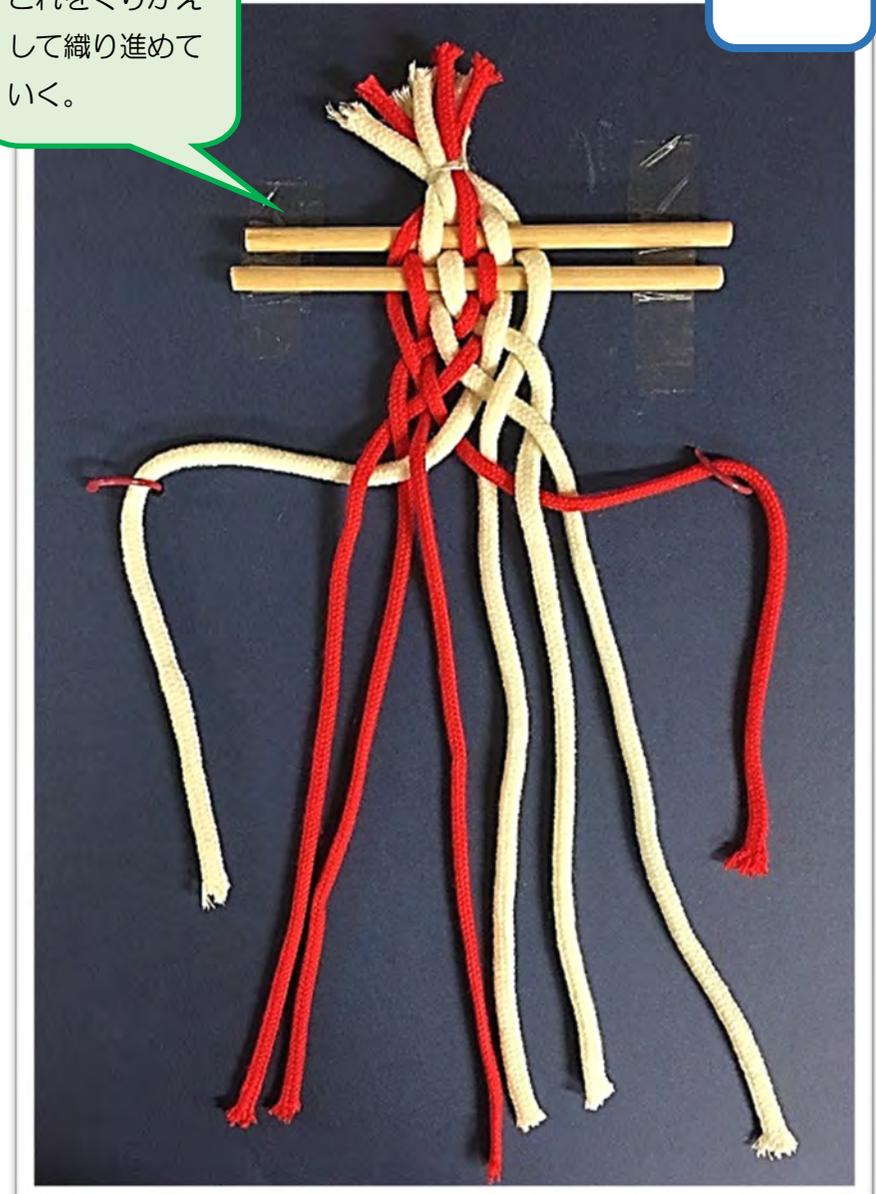


「い」の糸は「う」の下をくぐらせ、1本おいて「あ」の下をくぐらせて、他の糸とはなしておく。「あ」の糸はタテの方向に戻す。

「イ」の糸で「い」の下をくぐらせ、さらに1本おいた糸の下をくぐらせる。右はしまで行ったら、他の糸とはなしておき「ア」の糸はタテ向きに戻す。

4

これをくりかえして織り進めていく。



5



糸の残りが 4-5cm になるまで、織りすすめる。

6



丸棒をはずし、織りはじめのところを細糸でしっかりとしばる。

織り終わったところも、細糸でしっかりとしばる。

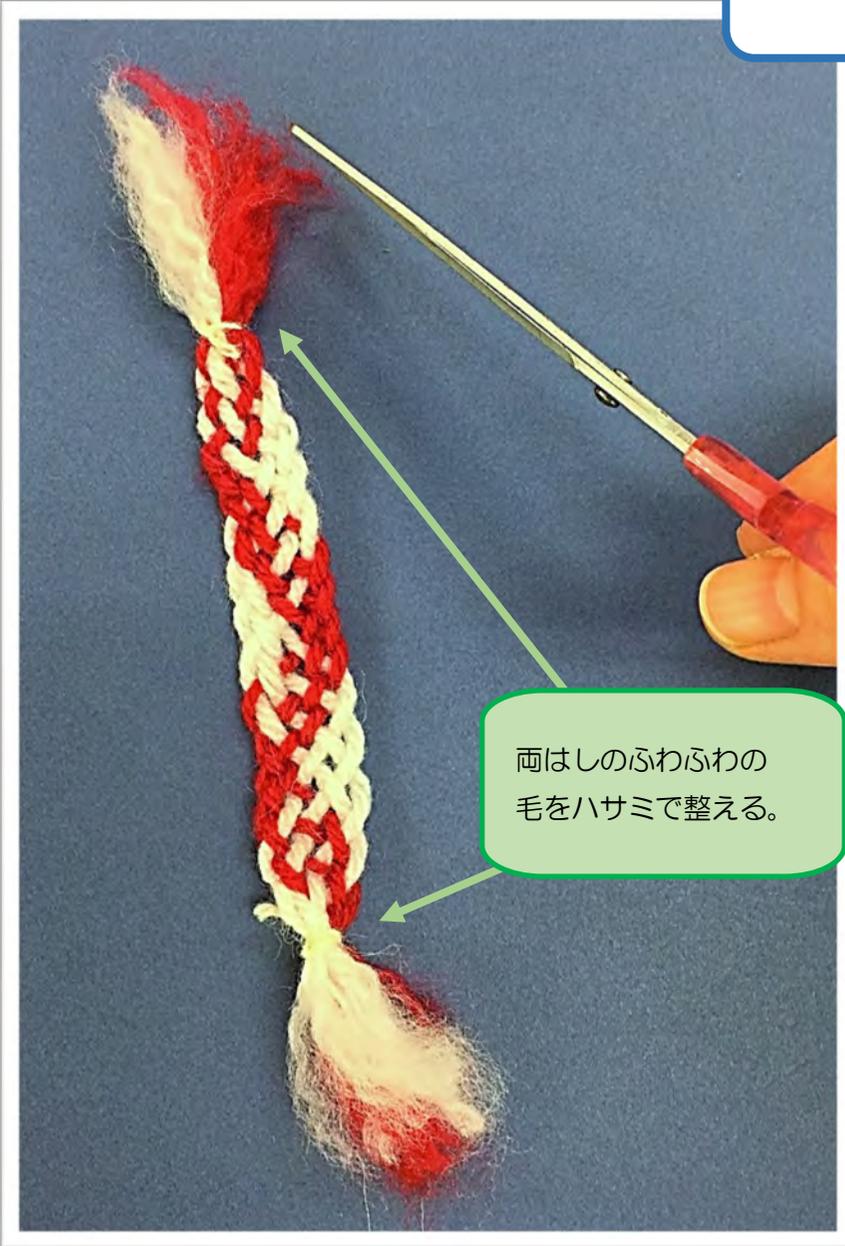
7



8



9



10



11



ブレスレットを手首に
巻き、輪の中に片方のは
しを入れる。



ひと巻きして毛糸の
先をブレスレットの
中に差し込む。

12



こんな感じ。
いろいろなファッションに
あわせてみてね。